

館林市地域懇談会実施結果報告書

令和4年2月
館林市

目次

I	地域懇談会概要.....	1
II	地域懇談会実施結果.....	2
	1. 館林地区.....	2
	2. 郷谷地区.....	5
	3. 大島地区.....	11
	4. 赤羽地区.....	14
	5. 六郷地区.....	17
	6. 三野谷地区.....	22
	7. 多々良地区.....	26
	8. 渡瀬地区.....	30
III	地域の課題一覧（「自助」・「互助・共助」・「公助」別）.....	32
IV	まとめ.....	35
	1. 災害への備え.....	35
	2. 地域での見守り.....	35
	3. 地域におけるつながり、イベントや行事活動.....	36
	4. 地域の困りごと.....	37

I 地域懇談会概要

1. 目的

地域住民の方々に地域福祉や地域福祉計画について理解を深めていただくとともに、地域における福祉課題を把握し、「第四次館林市地域福祉計画」策定に向け基礎となる資料を得ることを目的として地域懇談会を開催。

2. 開催日程

地域懇談会は、以下の8地区にて開催しました。

	支部名	地区名	開催日	開催場所
1	館林支部	館林地区	令和3年10月1日(金)	中部公民館
2	第三支部	郷谷地区	令和3年10月8日(金)	郷谷公民館
3	第四支部	大島地区	令和3年10月15日(金)	大島公民館
4	第五支部	赤羽地区	令和3年9月28日(火)	赤羽公民館
5	第六支部	六郷地区	令和3年8月24日(火)	六郷公民館
6	第七支部	三野谷地区	令和3年9月10日(金)	三野谷公民館
7	第八支部	多々良地区	令和3年9月21日(火)	多々良公民館
8	第九支部	渡瀬地区	令和3年9月29日(水)	渡瀬公民館

3. 実施方法

地域懇談会は、新型コロナウイルスへの感染対策を考慮し、書面回答を中心に開催しました。

4. 議題

4つの議題を通じて、地域における課題や今後の方向性を確認しました。議題1から議題3については、自身の地域の振り返りを目的とし、それらを踏まえ、議題4において、地域課題に対する取組の方向性を確認しました。

渡瀬地区では、これら4つの議題とは別に地域の課題を確認し、今後の方向性の議論を行いました。

議題1：自身の地域がどのような地域になることが望ましいかについて

議題2：自身の地域の良い点（強み）について

議題3：自身の地域の気になる点（弱み）について

議題4：望ましい地域に向けて、地域で実施していることや、これから地域住民や行政とともに取り組みたいことについて

II 地域懇談会実施結果

1. 館林地区

○懇談会参加者

支部長 1名 区長 6名 民生委員児童委員 4名 公民館 2名
 地域包括支援センター 2名

計 15名

○意見聴取状況

館林地区では、参加者の方にその場で各議題に対する議論を行いました。また、追加で書面での回答がありました。

○各議題に対する意見

議題1 自身の地域がどのような地域になることが望ましいかについて	
災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が比較的多いため、災害時に避難方法、避難場所の確保が必要。 ・集会所は低い場所にあり避難場所に向いていないため、高台にある寺等と連携し避難場所の確保が必要。 ・災害時にむけて、隣近所での話し合いを行う。
地域のつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化の進展により、高齢者同士での助け合いの仕組みが必要。 ・顔が分かる、挨拶ができる関係。
地域活動等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・以前行っていた寿会・子ども会・婦人会が揃って行った運動会をコロナ終息後に再び行いたい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・会則・町内会の目的は「会員相互の親睦をはかり、生活環境に関する行政からの情報の周知、地域区民の要望を充実、円滑な活動を展開し、住みよい街づくり、福祉の向上に寄与」である。したがって、第三次館林福祉計画・基本理念を理解し実現できることが望ましい。 ・子どもが少なく、ますます高齢化が進むのではないかと心配している。

議題2 自身の地域の良い点（強み）について	
地域のつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉に関する課題が発生すれば、民生委員・区長が中心となり、内容によって副区長を交えて対応する体制はできており実施もしてきた。 ・商店街などのエリアでは、挨拶ができる子どもたちが多い。
地域での見守り	<ul style="list-style-type: none"> ・週1回交代で町内のパトロール（空き家、空き地、ゴミ拾い） ・東武線ガード下の出口（富士見町）で立哨 ・小学生の下校見守り、声掛け
地域活動等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・寿会が中心になってサロンを開設して気軽に参加できるようにしている。

議題2 自身の地域の良い点（強み）について	
ごみに関する問題	・ゴミ収集も前日に出さないように皆が守っている。
移動・交通手段	・街中でスーパー・ドラッグストア等のお店があるので買い物には便利。
担い手問題	・地域の元役員が地域のつなぎ役となっている。

議題3 自身の地域の気になる点（弱み）について	
地域のつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・アパートがたくさんあり区費等の協力が得られない。 ・小学生の親御さんの参加がなかなか見られないこと。 ・挨拶は必要だが、知らない人に声をかけてほしくないという親の意見がある。 ・新興住宅と既存世帯との間に境界があり、つなぐ人がいない。 ・親に負担がかかるため、子どもを育成会に参加させないケースがある。 ・アパートに住んでいる人とのつながりが難しい。
地域活動等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・議題1の第三次基本理念「目標1～4」の実現ははるか遠くにある。活動はその時限りで一時的・部分的である。組織的体制や継続的活動などができていない。 ・育成会の役員が女性ばかりになっている。 ・育成会の活動が減少している。 ・コロナウイルスの影響で高齢者教室がなくなってしまっている。 ・婦人会、青年会、育成会など地域のつながり、活動がなくなってきている。
ごみに関する問題	・道路脇にごみステーションがあると多く、通りがかりの人がポイ捨てしていくケースがある。
担い手問題	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの地域と行政との取り組みでは現状維持か先細りが予想される。 ・行政区の役員、児童民生委員の担い手不足で任期満了時の役員交代が難しい。
その他	・行政区の「地域福祉計画」への理解度や取り組み等がまちまちで、計画の推進と行政区の現状に差があり、課題である。

議題4 望ましい地域に向けて、地域で実施していることや、これから地域住民や行政とともに取り組みたいことについて	
地域のつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者(特に一人暮らし)の日常を把握して生活支援を行う。 ・育成会の活動で子どもの人数が足りない場合は、別の区の育成会の子どもに参加してもらっている。 ・「できることからやっていく」ということを区長会で話し合っていく必要がある。

議題4 望ましい地域に向けて、地域で実施していることや、これから地域住民や行政とともに取り組みたいことについて	
地域活動等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の友好団体である町内会・子ども会育成会・寿会・有志会では、相互の協力関係を祭りや運動会、納涼祭や防災訓練等を通じて親睦を図り、より良い人間関係が作られている。また、各団体は独自の活動なども行っている。 ・夏祭りや神社の初年祭などのイベントを満足してもらえるように盛大に行う。 ・数は少なくなっているが、地域に団体はある。横のつながりを持つことで活動を活発にできる。 ・地区の集会所を活用し、地域の活動拠点を作っていくことがよい。 ・育成会の活動を区で把握し、区としても協力していくべき。 ・他の行政区から参加協力してもらった人にも保険をかけるなどの対応も検討しなければならない。 ・認知症の人が参加できるコミュニティがあるとよい。徘徊高齢者の顔が分かるようになると良い。 ・区内の団体同士のつながりや、区をまたぐ団体同士がつながることで、地域の活動を活発化できるのではないかな。
福祉サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども会の相談など、行政には窓口を一本化してほしい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉の動向に関しての提案 行政地域に第2層協議体として、福祉の専門職を配属する。または、包括支援センターの出先機関を配置する。 提案の効果: 行政区の課題解決のため、福祉担当者(区長・児童民生委員等)と専門家とが、普段から身近で気軽に相談できる。現状より、行政区の福祉への認識が深まり、福祉活動に対するボランティア等の人材確保(主に区長や児童民生委員等の経験者)が容易となる。 提案の結果: 地域福祉計画がより推進され、福祉担当者の負担軽減にもなる。

2. 郷谷地区

○懇談会参加者

支部長 1名 区長 3名 副区長 12名 民生委員児童委員 9名
主任児童委員 1名 公民館長 1名

計 27名

○意見聴取状況

郷谷地区では、各議題について書面回答としました。

○各議題に対する意見

議題1 自身の地域がどのような地域になることが望ましいかについて	
災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> ・大地震や大型台風といった大災害の時のために、地域の住民同士の助け合いが重要。隣近所で日常からあいさつ等の交流があり、人と人の温かみを感じられる地域になるとよい。 ・災害時に助け合える地域。住民同士のコミュニケーションが必要なため、外出の習慣や気軽に挨拶できる地域になればよい。
地域のつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が多い地域なので、日ごろから近所のつながりを持ち、災害時や異常事態の際に、支援や連携が取れる地域。 ・独居高齢者の孤独死がないように互いに普段から声掛け、関心を持って注視ができるような体制づくり。 ・独居高齢者などでスマホ未所有の方に行政からスマホを貸与し、LINEができるようにする（既読だけでも安否がわかる）。 ・人間関係が希薄化しているため、気軽にあいさつできるようになることが必要。 ・コロナ感染症で人づきあいが希薄になっているため、もとに戻すのは本当に大変。 ・地域の住人が気軽にあいさつ、会話ができる町内。 ・人とのつながりを強くし他人の行動を理解し接していく、頭を柔らかくし新しいことを取り入れ、自分と違う考え方も理解し自分と違う行動に対しても批判したりせず受け入れる体制が望ましい。 ・見守り、つなぐ、把握する。3つの柱を共通認識として共有することが、地域共生社会の実現につながるので、民生委員、区長、各種委員、包括支援センター、行政とともに連携を適切にとっていく。 ・老若男女、助け合って生活していける地域になること。 ・年代間のコミュニケーションのとれるまち。
地域での見守り	<ul style="list-style-type: none"> ・行政区の活動を通して「顔なじみの関係」を深め、子ども、高齢者、障がい者への「見守り活動」を組織的に実行し「ふれあい、支え合いの地域づくりを」実現する。

議題1 自身の地域がどのような地域になることが望ましいかについて	
地域活動等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が地域の多様な催し物に積極的に参加・協力するような地元になればよい。 ・隣近所の付き合いが希薄化しているので、行事等の参加を促し住みやすい地域を連帯して作っていききたい。 ・地域住民が気軽によれる場所をつくり地域の活気を図りたい。 ・町内に助け合い活動のできる会合の場があればよい。その団体に多くの部門があり、多くのボランティアがいて福祉活動を行ってもらおう。部門の例として、自主防災の事、通いの場、老者に手助けする部門、子どもを見守る部門などの活動があればよい。 ・地域の活動（行事・その他）が若い世代・ミドル世代・高齢者に合った形で参加でき、協力し合い、明るく活気のある地域になるとよい。
空き家等の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸谷や市全体でも同様に空き家が目立っているため、街の活性化の為に空き家の有効活用を行政とともに考えたい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の元気な声がし、若者が生き生きと働く活気のある地区になる。

議題2 自身の地域の良い点（強み）について	
災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> ・郷谷地区防災計画「命を守るさとやの絆」がつくられ、地区ごとの自主防災組織による防災訓練が行われている。 ・既に自主防災組織を立ち上げており、講習会や防災訓練を行い、理解と意識の高揚を図っている。民生委員は、避難困難者、要支援者の全体管理、運営管理を担っている。 ・防災・減災活動の取り組み。
地域のつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・小さい町内なので団結力があること。 ・知らない人がいないような地区なので、コミュニケーションはよく、高齢者を含め孤立している人は見受けられない。 ・住民が少なく、昔からの付き合いのためお互いの様子がわかり絆が強い。 ・世帯が少ないので、隣近所の様子がわかりやすい。（家族構成など）
地域での見守り	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進んでおり、ほとんどの住民が同年代のため助け合いや見守りの基盤は作りやすい。
地域活動等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染症の流行前は、地域の夏祭りや地区体育祭などまとまりのある実績がある。 ・各種行事や催し物などへの出席率はよく、何事にも協力的である。 ・女性老人会の結束が強い、女性役員だけで「通いの場」を立ち上げ実行している。 ・「通いの場」や「自主防災組織」等の新規立ち上げについて、理解と積極的な参加意識は認められる。 ・「ふれあい広場」は70歳以上の高齢者が花や野菜を育てており、季節の花等が楽しむ、地域の交流の場になっています。

議題2 自身の地域の良い点（強み）について	
ごみに関する問題	<ul style="list-style-type: none"> ・町内では自宅前の道路は常に清掃されていてごみの散乱はみられない。 ・地域の住民は比較的マナーを守り、積極的に美化活動に努め、ごみ問題もルールを守り綺麗に行っている。しかし、他地域からの持ち込みらしいものがあり、見ていないところに問題がある。 ・地域では、ごみ当番の際にノートに記載して順番に回しているため、ごみステーションの周りはきれいになった。 ・環境衛生活動の対応
移動・交通手段	<ul style="list-style-type: none"> ・近くに大型スーパーなどがありとても便利に感じる。 ・日用品や食料品を買える店が比較的近いところにある。 ・子どもが遊べる公園があり利用者も多い。
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・地盤が軟弱なため、地震に強い。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・城沼には遊歩道が広がり、散歩もできるし、気持ち的にも落ち着く。 ・地域はコンパクトな住宅エリアを形成し、転入者も増加している。 ・住宅がまとまって建っている静かな街並み。

議題3 自身の地域の気になる点（弱み）について	
災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> ・災害（水害）時の避難場所として現在の場所だけで十分対応できるのか。
地域のつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・核家族化により、地域の住民自体が大きく変化したため、地域自体が従来の形を留めるのが難しくなり町内会に参加活動することを拒否する住民も少なくない。
地域での見守り	<ul style="list-style-type: none"> ・世代間の交流の場が少ない。現任の地域活動のリーダーは高齢者への偏りが見られ、成年・壮年世代の参画不足が顕著である。 ・独居高齢者の増加 ・高齢者の割合が高く、今後の地域の活動への不安 ・一人暮らしの高齢者が増えていること。 ・一人暮らしの人が増えてきて、その対策に苦慮している。包括支援センター等と連携して一人ひとりの立場を考慮し、解決しておりますが、専門知識の方がいなくて困っています。 ・この地域だけでなく、一人暮らしの高齢者が増え、空き家が増えていること ・ひきこもり問題が、8050問題としても大きな社会問題となっている。本市でひきこもり調査アンケートが実施されたがプライバシーの問題で情報が得られず、実態がつかみきれていない。今後、研修会などで多様な支援につなげていくことが大事。 ・一人暮らしの高齢者が多い
地域活動等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・催し事を行うのも、人集めが大変。協力性が皆無。 ・地域活動に参加する人はいるが、ボランティア活動、地域活動を担うリーダー不足が慢性化している。

議題3 自身の地域の気になる点（弱み）について	
ごみに関する問題	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみステーションに出されるごみが分別されず、指定日以外にも出されること
空き家等の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家が増加しており、無管理状態の家が目立つ。防犯の観点からも対応が必要 ・空き家の増加 ・空き家が増えているが、現在は親族が適切に管理しており問題は生じていない。今後増加することは間違いなく、問題が生じかねない。 ・空き家が増え、危険な状態で放置されている家が多い ・急激な人口減による空き家の増加、高齢化した住民が多い
移動・交通手段	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の増加で車の免許証の返納を考えている方が増えていると思います。個通の便（路線バス）が良くなればよい。 ・地域の発展を望むが、大型店舗や娯楽施設のある市にしたい。羽生から佐野アウトレットまで抜ける道があれば交通量も増えてにぎわうのではないだろうか。 ・子どもが少なく、高齢者が多くなり買い物も不便になってくる。 ・町内を二分する形で道路ができました。車の数も増え、子どもや高齢者の事故を心配しています。 ・総合病院まで行くのには遠いところにあり不便
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・地域地盤の関係で道路や歩道に段差が多く、高齢者や子どもには危険がある。 ・近くに子どもを遊ばせる、遊具のある公園がない。 ・生活面においてかなり過疎化が進んでおり、地域面積は大きいですが信号は一機、店は八百屋さんが一軒くらいで、のどかだが、活気のない地域
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・建売住宅完成後約40年経過 ・高齢化・少子化の進行 ・少子高齢化が現実に行き始めていること ・福祉とは幸福、しあわせの意味であり人がそれぞれの考えがあってよいと思う。 ・最大の課題は、少子高齢化と後継者不足による人口減少。これが多くの課題に起因している。 ・地域の活動を支えるべき、若い世代が少ない。 ・高齢化による町内地域格差

議題4 望ましい地域に向けて、地域で実施していることや、これから地域住民や行政とともに取り組みたいことについて	
災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯パトロールの継続 ・災害時に犠牲者を出さないために、要支援者対策に取り組み、具体的に要支援者に誰がどのように声をかけ手助けをするのか、仕組みを作っていきたい。 ・避難行動要支援者計画を現在、策定中であり、避難先や車イス（要介護者）での移動が移載方法について相談したい。
地域のつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・行政機関などと支援体制や仕組みづくりなどに参画していくことで、見識も深まり引き出しが多くなり、対応力の強化となる。 ・一人暮らし世帯へのふれあい訪問
地域での見守り	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯パトロールを月に1回実施し安全安心を目指している。 ・独居高齢者の見守り、声掛け ・小学生の通学時の見守りや通学路の除草作業の実施と土木事業所へ道路整備 ・防犯パトロール回数を増やすとともに防犯灯の増設 ・隣組長を中心に一人暮らしの高齢者の見守りをしたい。 ・民生委員が地域福祉の担い手として、住民の生活状況や生活環境を的確に把握しておかなければならない。 ・毎日、公園でラジオ体操を実施、高齢者や小学生が参加し健康増進をしている。 ・地域の多くの人々が触れ合える場の開催 ・コロナ禍の為、地区内の行事（春、夏、秋祭りなど中止）ができないので交流の場が少なくなっている。 ・三世代交流の場の設営 ・「通いの場」や餅つき大会、買い物支援としての「移動販売」が始まりました。65歳以上の高齢者が増えているが、今までやってきた仕事や趣味、資格などを町内会で人材バンクのような形で把握し、地域でそういったスキルを生かせる場を提供したい。
福祉サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・強風により御神木の枝が折れ、停電などの被害防止のための剪定等地域に役立つ情報を回覧で発信
空き家等の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家対応や、歩道、用水路の除草を行政と連携して実施 ・空き家に関する検討
移動・交通手段	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物弱者のための移動販売車（とくし丸）検討推進 ・食料品等の移動販売が始まる。 ・運転のできない方が増えてきたが、タクシー券の活用には回数に限られてしまうので、安心して必要回数利用できることが望ましい。小型バスの運航などがあるが、増便や他の方法も考えてみる必要がある。 ・移動スーパーによる買い物支援事業

議題4 望ましい地域に向けて、地域で実施していることや、これから地域住民や行政とともに取り組みたいことについて	
担い手問題	<ul style="list-style-type: none"> ・役員問題については、行政及び各種団体へ役員数の削減の相談、役員定年制等の検討 ・地域福祉活動を行ってくれる人材を確保したい（ボランティアなど）。 ・地域活動を担うリーダー育成プログラムの有効な教育・実践を指導願いたい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホの貸与に関する検討 ・最大の課題である人口減少を食い止め、活気ある村づくりについては行政主導で企業誘致などによる雇用創出や、農業が魅力である職業で後継者が育つような環境づくり。

3. 大島地区

○懇談会参加者

支部長 1名 区長 1名 副区長 7名 民生委員児童委員 4名
 主任児童委員 1名 保護司 1名 更生保護女性会 1名 身障者更生会 1名
 公民館長 1名 計18名

○意見聴取状況

大島地区では、各議題について書面回答としました。

○各議題に対する意見

議題1 自身の地域がどのような地域になることが望ましいかについて	
災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時、一人ひとりを助け合うことのできる地域。 ・災害時に弱者を皆で助け合える地域。
地域のつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもから高齢者まで明るく元気な地域づくり。 ・「向こう三軒両隣」は「互近助・自守防災」最小集合体（組織） ・信頼と安心によってお互いが何かと助け合うコミュニティが「向こう三軒両隣」でできていたが、個人主義、個人情報保護などで人間関係が希薄になっている。そのため、災害時の共助体制がとれない。現状に合った「向こう三軒両隣」を再考することで新しい地域コミュニティの構築向上を図る。 ・地域全体で子育てを協力・サポートしていくつながりのある地域。 ・明るく安心して住める地域。
地域での見守り	<ul style="list-style-type: none"> ・困ったときは、相談、助け合える地域の組織づくり。 ・一人暮らしの高齢者が安心して生活できる地域。 ・一人暮らしの高齢者を見守り活動で助け合える地域。
地域活動等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・他地区から多くの人があるイベントの企画。 ・高齢者が不自由なく安心して暮らせる地域。
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・若者が子育てしやすく、高齢者も不自由なく生活できる地域になってもらいたい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・若者が住みたいと思う地域。（子どもを増やす） ・若い世代の方に長く定住してもらうための魅力ある地域づくり。

議題2 自身の地域の良い点（強み）について	
地域のつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民のつながり。 ・地域のつながりが強い。 ・地域で子ども達を育てようと思っている方が多い。 ・人の移動が少なく、気心の知れている隣近所の関係。 ・地域防犯防災活動・環境美化運動などに対しても住民の賛同・協力は得られている。
地域での見守り	<ul style="list-style-type: none"> ・隣近所で高齢者を見守ることができる。
地域活動等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・年間行事計画において実施内容・回数など他の行政区より充実していて住民の交流の機会が多い。 ・昔からの行事継続。 ・世代間交流があり、年間を通して地域ならではの行事が多くある。
ごみに関する問題	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの分別がきちんとしている。
移動・交通手段	<ul style="list-style-type: none"> ・高速インターに近い。 ・高齢者が元気で田畑の仕事を続けている。 ・農地が多い。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・自然（田園風景・渡良瀬川）がある。 ・緑が多く自然環境がとても良い。 ・地域（自治会）のビジョンも明確にとらえ企画・運営出来ている。地域福祉についても良い活動ができるはず。

議題3 自身の地域の気になる点（弱み）について	
地域のつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民のつながりが薄い。 ・高齢化が進み若い（20～40代）世代がゼロで将来助け合いもできなくなるのではないかと。
地域での見守り	<ul style="list-style-type: none"> ・昔は、隣近所と頻繁なお茶会で近況がわかったが、今は友人以外の交流が少ない。 ・高齢者の一人暮らしや高齢者の夫婦二人暮らしが増えている。 ・高齢者だけの家庭が多い。 ・地域福祉の推進のため、防災訓練などで「お助け名簿」を作成し、要援護者の存在が明確になったが個人情報についての配慮などがわからないので、プライバシーにどこまで踏み込んでよいのか戸惑う。要援護者から受け入れを拒否される場合も考えられるため、現状は民生委員・児童委員等の特定の活動者のみが訪問接触しやすいため行っている。地域福祉といっても知識もなく何をすればよいのか見えず、空回り感がある。住民が地域福祉にほとんど関心がないのが現状。

議題3 自身の地域の気になる点（弱み）について	
空き家等の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家問題（道路への樹木のはみ出し、雑草等）及び増加に懸念。 ・家の周りの手入れもできなくなったり、無人の廃屋も増え住環境が住みづらくなってきている。 ・空き家が多く、治安など将来的に不安がある。
移動・交通手段	<ul style="list-style-type: none"> ・公共の交通手段がほぼない。 ・近くにお店が少なく、買い物は車がないと不便。 ・バスの便数が少なく、買い物・通院などに不便。
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・街灯が少なく事故などが心配。 ・農家の後継者がいなくなっている。 ・地域福祉推進に携わる人材不足。（継承者の確保も難しい） ・福祉活動に取り組むリーダーの育成。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・行動力がない。

議題4 望ましい地域に向けて、地域で実施していることや、これから地域住民や行政とともに取り組みたいことについて	
地域のつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員・児童委員との連携を強化し、住民に対して地域福祉の事例・実績等情報提供し地域福祉現状を理解してもらい少子高齢化が進展していくなか地域福祉への意識向上となるような啓発活動を実施する。行政のサポートを受けながら初歩的な事柄の懇談会を開催する。高齢者より若者が地域福祉へ参画することが必要不可欠な時節が到来している。
地域での見守り	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生の登下校の見守りを実施している。 ・コロナで中止になっているが、月1回防犯パトロールを実施している。 ・防犯パトロール月1回 ・防犯パトロールの回数を多くしたい。 ・一人暮らしの高齢者の見守り体制を検討したい。 ・行政主導の高齢者見守り活動に協力したい。
地域活動等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの住民が、気楽に集まれる場所の確保。 ・桜祭り・秋祭り（防災訓練盛込み）・グランドゴルフ年2回（コロナ禍中止） ・誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場造り。
ごみに関する問題	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動年8回・資源回収年5回実施
移動・交通手段	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物を便利にするために出張販売車を活用したい。 ・高齢者が運転免許を返納してからの生活支援について検討したい。 ・高齢化に向け、買い物サポート等の組織づくり。
担い手問題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の為に活動する人材を育てることが大事。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・移住者の誘致

4. 赤羽地区

○懇談会参加者

支部長 1名 区長 3名 民生委員児童委員 11名 主任児童委員 2名
 公民館長 1名

計 18名

○意見聴取状況

赤羽地区では、各議題について書面回答としました。

○各議題に対する意見

議題1 自身の地域がどのような地域になることが望ましいかについて	
災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> ・赤羽自主防災会で災害時における要支援者管理名簿を作成している。 ・希望する方に直接聞き取り調査を行い支援者の協力体制と、家族関係との信頼関係を密にし、いざという時、行動ができることを目指した地域づくりと、隣近所の人とのふれあいと日常のあいさつが大切。 ・災害時に助け合える地域 ・災害時に隣近所の高齢者や要支援者を助け合える地域。 ・隣近所が何かあったときに助け合える地域。
地域のつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・風通しがよく話しやすい、自然に互助・共助できる地域。 ・全ての人々が安全・安心して生活できる環境づくり。 ・困ったとき、家族以外でも相談できる人がいる場所がある。 ・あいさつ運動 ・地域が一体となり活動に参加し横のつながりを持つ。 ・住民同士が適度な関心と共助の意識を持ち、防犯面で安心できる。
地域活動等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションが取れる場所、健康づくり活動の場を積極的に取り組んでいくこと。(地区集会所を使用する) ・行事がある時は参加して誰もが少しでも楽しく生活できる地域。 ・高齢者が気軽に集まり会話や運動ができる場所があるとよい。 ・高齢者がもっと外に出て元気に活動できる地域。 ・集まりの大事さ、会話の強化。 ・行事をもって頂くことによって参加することが望まれる。 ・自然環境や芸術文化のイベント開催を活発にする。 ・駅前商店街がにぎやかで街全体として活気がある。
福祉サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用や育児・高齢者・障がい者への福祉、医療の充実。
ごみに関する問題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者一人暮らしの方のごみ出しを支援してあげる機関があるとよい。

議題2 自身の地域の良い点（強み）について	
地域のつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域では、お互いの顔がわかり昔ながらの付き合いが残っている。 ・留守にする際に近所の人に連絡していくことができる。有事の際の連絡や助け合いができています。 ・若者と高齢者が交流を持ち、新旧混合の者を取り入れることが、子ども達を育てるうえで無駄なことではないように思う。やさしさ、人間としての大きさを学べると思う。 ・昔から住んでおり隣近所をよく知っているので、有事の際のつながりができている。 ・住民の人柄が穏やか
地域活動等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・健康な高齢者はグランドゴルフや老人会への参加によって同世代での交流が行われている。 ・近くに花山公園があり、子ども達が遊んだり、散歩を安心してできる場になっている。 ・サロン活動 ・郷土文化の継続によって交流を強化できる。
ごみに関する問題	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの収集日に全世帯が当番制で分別等を行い環境美化に努めている。 ・ごみの収集所を整備し、ごみ出しも規則が守られている。 ・ごみが散乱していない。 ・通りは整然としており、ごみ収集場所も片付いている。 ・ごみ出しの日に奥の方にきちんと出しており、集積所がいつもきれい
移動・交通手段	<ul style="list-style-type: none"> ・都心へのアクセスが比較的良い
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・緑が多く自然環境に恵まれている。 ・新鮮な地元野菜が入手できる

議題3 自身の地域の気になる点（弱み）について	
地域のつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・隣人とのつながりが薄くなって、家の行き来が少ない。 ・自己中心的な地域に向かっている。
地域での見守り	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯パトロールは歩いているだけでも「防犯」の意義はあるかもしれないが、子どもの下校時間と異なるためただ歩くだけになってしまっている。 ・一人暮らしの方が外に出ず、家の中にいる。
地域活動等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代がいがないため、この先の年行事の遂行ができないこと。 ・過疎化やモータリゼーションの進展により駅前商店街に活気が乏しい。 ・芸術文化イベントが近隣の市町村に比べて少なく、小規模である。
福祉サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・総合病院の医師が少ないなど医療体制が不安

議題3 自身の地域の気になる点（弱み）について	
空き家等の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・耕作放棄地が増えつつある。道路に面している場合は見通しが悪く危険。害虫被害やごみの不法投棄がある。
移動・交通手段	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしの高齢者や買い物に行けない高齢者が心配。赤羽地区では、令和元年より買い物支援サービスを実施しているが、コロナ禍で休止となっており、今後は継続してほしい。 ・近くにちょっと買い物をする店などなく車を使わないと行けない。 ・バス停が遠い
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・交通量の多い国道があり横断するのに危ない。 ・歩道が急に狭くなったり、草が伸びて通りづらい所がある。 ・白線のみ歩道でも草花や木が出て白線から出ないと通れない場所がある。 ・歩道が狭く、ガタガタして危険な所もある。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の雇用力に限度があるせいか、過疎化が進んでいる。 ・子どもが少なく、高齢者だけの家が多い。

議題4 望ましい地域に向けて、地域で実施していることや、これから地域住民や行政とともに取り組みたいことについて	
災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時や防犯の為に地域住民の家族全体の正確な情報を把握し共有したい。
地域での見守り	<ul style="list-style-type: none"> ・地区では月2回の防犯パトロールを実施しているが、(児童対象)外出者がいないため声掛けができていない状況。 ・一人暮らし高齢者宅への声掛け訪問 ・防犯パトロールを週1回実施している。 ・児童の福祉教育が大事だと思う。
地域活動等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の健康管理（道草散歩） ・隣組単位でサロンを設け、悩みや相談ができる環境を作り、つながりを密に ・高齢者のいきがいとなるような場を作る。 ・地域活動を実施し人と人との信頼関係を構築する。 ・「集まる」→「何かに気づく」→「活動する」 ・共助の面で自分に向いていることがあれば、お手伝いしたい。芸術文化興隆の面でも同様である。
ごみに関する問題	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルパーさんがごみを預かって、自分の家でごみが出せる日まで置いているというのを聞いたので、ヘルパーさんが預かったらその日のうちに市役所などに持っていけるようにできないか。
移動・交通手段	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の整備充実、高齢者が安心・安全に外出できるよう行政が対応を行う。 ・買い物が楽になるようにヤオコー行きのバスの便数が多くなるとよい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・空き店舗を活用する。 ・地方新聞や市の広報に関心を持ち、地域の課題などの情報収集に努める。

5. 六郷地区

○懇談会参加者

支部長 1名 区長 13名 民生委員児童委員 3名 公民館長 4名 公民館 1名
計 22名

○意見聴取状況

六郷地区では、各議題について書面回答としました。

○各議題に対する意見

議題1 自身の地域がどのような地域になることが望ましいかについて	
災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に自力で避難の難しい障がい者や高齢者への公助組織・機械的な避難体制の構築 ・災害時における年配者が中心となった組織運営 ・災害時や緊急時に隣近所で救助ができる体制づくり ・地区防災計画で共助組織の具体化を図り、災害時に助け合える地域 ・地域の人が安心して暮らせるよう、災害時に助け合える地域
地域活動等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもや若者が中心となったイベント等の企画運営 ・区主催の行事開催による若者から高齢者の連携の取れた地域 ・子ども、高齢者、障がい者が助け合える地域で、集う場所のある地区 ・会館、集会場等のいつでも誰でも寄り道できる開かれた場所があること。 ・夏祭りやグラウンドゴルフ、パークゴルフ等を各年に1回程度行っているが、少しでも多く気軽に使える公園などが欲しい。
地域のつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から日常生活の中で横のつながりや連携が持てる地域 ・報告・連絡・相談ができる地域 ・子どもから高齢者が地域行事を通して顔見知りになり、災害時だけでなく日常的に助け合える地域 ・隣近所との付き合い ・向こう三軒両隣でお互い様の精神を持つ ・若者から高齢者まで地域のすべての人が何らかの形でつながりを持つこと ・あいさつ運動を積極的に実践し、地域交流に参加しやすくなるようなふれあい活動のある地域 ・普段からコミュニケーションをとり、地域組織や行事で各年代が活躍する場と助け合える集団づくり
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもから高齢者まで、すべての区民が安全で安心して暮らせる地域 ・区民にいつまでも住み続けたいと言われるような地域

議題1 自身の地域がどのような地域になることが望ましいかについて	
福祉サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・受けられるべき医療や介護が「受けられない」ということがない地域 ・市（福祉行政の担当課や担当者）と（福祉サービスを受ける対象者）とを結びつける。 ・公的役職者（民生委員や保護司）等の密なる関係を構築すること。 ・各々の立場で役割と責任を果たすこと。

議題2 自身の地域の良い点（強み）について	
災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練を行っており、防災の意識が高い。
地域のつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・隣組や自治会が組織されている。 ・高齢化しているが、近所の付き合いも良い。 ・隣近所の人々との立ち話が多く楽しい地区。 ・区長など、地域の役員を中心によくまとまっている。 ・子どもと高齢者を大事にする。 ・役員を数年続けて頑張ってくれる人が多い。 ・戸建住宅が多く、近所間の問題が少ない。 ・公的立場の役員の方々が、各自、自主的・積極的な活動をしている。 ・町内の子ども会、育成会が活発。
地域活動等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・年7回から10回の地域行事の開催による一体化。 ・高齢者向けの集まり団体が3つあり活発な活動をしている。 ・毎年、小学生以上の区民が参加できるグラウンドゴルフ大会を開催している。 ・高齢者の集いの場所がある。（サロン、グラウンドゴルフ、寿会など） ・子どもから高齢者が気軽に使える運動広場が近くにないため苗木町のごみ処分の広場を整備して地域の人が気軽に使用できる木陰のグラウンドゴルフ専用コートが欲しい。 ・会館の建物や敷地が広くコミュニティの場所となっている。 ・高齢者が集まる「げんき塾」があり会館を中心の活動として各サークルがある。（卓球、グラウンドゴルフ等） ・気軽に参加できる永寿クラブ、サロンがある。
ごみに関する問題	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ当番がしっかりしていて、きちんと分別されている。 ・ゴミステーションの掃除当番を決めている。 ・きれいなゴミステーション ・道路などにごみの散乱はあまり見られない。 ・ごみ収集所などの清掃当番が機能している。
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・区内に日本遺産がある。 ・近々、区内を路線バスが巡回する。

議題3 自身の地域の気になる点（弱み）について	
災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> ・大雨・洪水で浸水する土地が多く、防災体制づくりが必要
地域のつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・近所づきあいの希薄化 ・隣近所の付き合い交流が少なくなっていることから、災害時に助け合う組織はできているか実行できるか心配。 ・現在は90%以上が協力しているが、区費の協力を拒否する人が出てきている。
地域での見守り	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が多く、子どもが少ない。 ・高齢者が多く、自宅の管理ができていない。 ・高齢者のみの家庭が多く、若い世代が戻ってこない。 ・一人暮らし高齢者の増加。 ・公民館を定期利用する団体の高齢化。 ・コロナ感染拡大で会館での活動ができない、高齢者の健康状態が心配。
地域活動等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに対する取り組みが十分ではなく、子ども、親子対象のイベントなどがない。（検討したい）
ごみに関する問題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内ごみステーションに他地区者のごみの排出があり、指定日及び指定物以外の物が放置され、区だけでは対応できない。 ・食べた後のごみのポイ捨てがある。
空き家等の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家が目立ち、荒れ地となっている。 ・一人暮らしが多く、空き家が増えている。
移動・交通手段	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーや病院がない。 ・区内の病院が移転してしまう。 ・海宝病院が移転し、医療機関が減少している。 ・交通の便が悪く、買い物に不便。
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・区画整理がされておらず、道路が狭い。 ・通学路に損傷が目立つ。 ・地域の中央を鉄道が通り、分断されている。 ・街灯が少ない。 ・犬の吠える声がいつもうるさい。
担い手問題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子ども会が失いつつあり、役員になる人がいない。（区内で子ども会の全面補助を検討） ・区役員の後継者不足。 ・若い人（50-60代）までの参加、協力が少なくなっている。 ・高齢化が進み、自治会の役員などのなり手が少なくなり、地域としてのつながりが弱い。 ・人材育成、役員になる人材の発掘。

議題4 望ましい地域に向けて、地域で実施していることや、これから地域住民や行政とともに取り組みたいことについて	
災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> ・形骸化した地区防災計画（組織）の見直しと再構築。（災害時の要支援者等の対応が未整備、対象者の現状把握をし、対応等の課題に取り組みたい） ・洪水時などの防災組織づくり。
地域のつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のつながりを大切にし、子どもから高齢者まで進んで誰にでもあいさつできる人を増やす。 ・地域内の融和、自宅から一歩社会に出て対人関係や良好な関係をつくる。
地域での見守り	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの登下校の見守り、高齢者への声掛け。 ・子どもたちを交通事故から守るため、入学前に交通安全祈願を行い、正しい横断歩道の渡り方を指導している。 ・高齢者の見守りの在り方を検討したい。 ・防犯パトロール、廃棄物パトロールを実施している。 ・熱中症パトロール（80歳以上の高齢者対象）を実施している。 ・区の有志2・3人1組で通学路や町内を上旬・中旬・下旬の1回ずつ防犯パトロールを実施している。 ・防犯パトロールを年7回程度実施している。 ・防犯灯及び道路状況調査を年8回程度実施している。 ・防犯パトロール、青パトロール、こども見守り隊を週1回地域を分けて実施している。
地域活動等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練や地域行事を通じ、住民との関わりを持つ機会を多くしたい。 ・年1回の地域一斉清掃など。 ・区民の交流事業に力を入れたい。 ・地区が住みやすい場所になるよう一人一人が参加し、行動するようになってほしい ・地域の人たちと参加できる趣味やスポーツのサークルづくり ・「通いの場」を月2回実施し、「100歳体操」などを行い、近所の高齢者と短い時間の談笑をしている。
ごみに関する問題	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミステーションの清潔な場所へ ・毎週月曜日に防犯パトロールを兼ねてごみ排出見守りを実施しているが対応できない。防犯カメラを設置し、市と警察で連携して指導してもらいたい。
移動・交通手段	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のみの世帯の買い物が心配なことから送迎を区内で個人車を使用できるか、他問題点等を相談したい。

議題4 望ましい地域に向けて、地域で実施していることや、これから地域住民や行政とともに取り組みたいことについて	
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・若者が暮らしやすく子どもたちがたくさんいる。 ・側溝の出っ張った蓋につまずき、危険。 ・雨の降ったとき詰まって川のようになる。(側溝の中から草が伸びている) ・400年以上続く日本遺産のどんど焼きを守り続けたい。 ・高齢者が住みやすい地区。
担い手問題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の役員を気持ちよく見つけられる状況にしたい。 ・災害時の体制づくり(自主防災団)を行っているが、高齢化しており若い方(50-60代)へ引継ぎをしていきたい。

6. 三野谷地区

○懇談会参加者

支部長 1名 区長 2名 副区長 6名 民生委員児童委員 6名
主任児童委員 2名 公民館長 1名

計 18名

○意見聴取状況

三野谷地区では、各議題について書面回答としました。

○各議題に対する意見

議題1 自身の地域がどのような地域になることが望ましいかについて	
災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時や緊急時にいつでも話し、助け合える、顔の見える地域 ・災害時や緊急時に隣組単位で助け合える地域
地域のつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもから高齢者までつながりが持てる地域 (栄寿クラブの活動、保育園、小学校の各学年で世代間交流の実施によって、高齢者が活躍し、生きがいや喜びを感じている。) ・他人にも思いやりを持って暮らしていける地域 ・自然にあいさつできる地域 ・自助・共助・公助と叫ばなくても自然に地域の人が安心して暮らせる「地域福祉」であってほしい。
地域での見守り	<ul style="list-style-type: none"> ・地域全体（ひとり、ふたり暮らし）の様子が声かけで分かるようにしたい。
地域活動等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障がい者を含め皆が参加する場や居場所がある。 ・地区の集会所を活用し、高齢者がいつでも立ち寄り、お茶のみや世間話ができること。 ・高齢者ではない人も気軽に参加できるサロンのような場づくり ・高齢者のコミュニケーションの取れる場所を作る。(〇〇教室や軽スポーツの講習など) ・高齢者が積極的に行事に参加できる地域 ・地域行事で代表者だけでなくたくさんの方々が喜んで集い合える地域 ・災害時の助け合いのため、平時の交流や活動を大切に、行事などを企画・実施する。 ・いつでも、だれもが参加できる諸活動の実施と工夫をし、若い世代との交流で地域文化の良さを継承したい。 ・市の一斉清掃等に参加しない家庭が多いので、協力し合う中で交流ができる地域になってほしい。
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもから高齢者まで、やりがい、生きがいを持って生活ができる地域

議題2 自身の地域の良い点（強み）について	
地域のつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民世帯が36軒なので、地域全員が知り合い的である。 ・都市部より顔見知りの人が多く、近くに血縁者が住んでいるなど、昔ながらのつながりがある程度残っている。 ・昔から住んでいる人が多く、顔見知りのため偶然会っても気軽に会話ができる。 ・隣近所は皆、顔見知り。
地域での見守り	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の仲が良く、子どもを温かく見守る大人の目がある。 ・住宅があまり密集していないので、子どもたちや高齢者の事件や事故などを未然に防ぐことができるのではないかと思う。
地域活動等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナで中止になっているが、地域をあげての夏祭りが30年余り継承されている。協賛金集めや模擬店の運営など地域の各種団体を巻き込んだ仕組みづくりができています。 ・毎朝のラジオ体操（夏休みは子どもも参加） ・地域が一体となれる夏祭りがある。 ・小学生から大人が熱心に参加する大運動会がある。 ・毎朝、公園でラジオ体操を開催している。 ・ふれあい昼食会を実施している。 ・気軽に参加できるサロンがある。 ・グラウンドゴルフ ・各地域の良さを生かした居場所、やりがい、サロン等の各活動の充実を図っている。 ・栄寿クラブや区長会により地域文化の継承に努めている。（餅つき、田植え、稲刈り等） ・郷土芸能の継承
ごみに関する問題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内の道路にはゴミが全くというほどない。 ・ゴミステーションが散らかっていない。 ・通学路にごみがほとんどない。 ・地区役員の方々の努力で、ゴミ収集所がきれいになっている。
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・不便なことはあるが、大きな災害もほとんどなく住みやすい。 ・メイン通り、通勤時間帯を除き交通量が少ないため、自然を看ながら散歩ができる。

議題3 自身の地域の気になる点（弱み）について	
災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> ・要支援者、助けが必要な方の定期的な情報交換ができていない。（隣組長、民生委員、区長など）
地域のつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内のアパートに入居している人と地域住民の交流がない。

議題3 自身の地域の気になる点（弱み）について	
地域での見守り	<ul style="list-style-type: none"> 一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯が増加している。（近所の方は口数が少なく、話しかけても話をしない） コロナの対応で、全ての行事が中止になり交流する機会が全くない。 みこしを担ぐ人がジリ貧傾向にある。 地域行事への若手世代の参加が少ない。
ごみに関する問題	<ul style="list-style-type: none"> ごみ等分別や整理が不十分でルールやマナーに欠ける、回覧板でゴミステーションの利用についてお願いしてもなかなか改善されない。
空き家等の増加	<ul style="list-style-type: none"> 空き家が増えている。 空き家が放置しており、草木がのび放題で火災などの心配がある。
移動・交通手段	<ul style="list-style-type: none"> マイカーが生活の基盤であり、運転免許返納者や高齢者世帯の買い物が不便 高齢者の交通手段がない 食料品の店がないため、高齢者が車で買い物に行かなくてはならない。 高齢者の買い物（買い物支援） 少子高齢化が進み、老人世帯が増えている。（今年小学校入学2名、75歳になった人14名）
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> 新堀川付近の雑草が伸びており、反対側の道路の車の往来が見えない。 生まれたばかりの猫が2～3匹捨てられており、成長するとゴミ置き場をうろうろしている。 活性化がない

議題4 望ましい地域に向けて、地域で実施していることや、これから地域住民や行政とともに取り組みたいことについて	
災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> 今後のお助け名簿登録者への日常的支援
地域での見守り	<ul style="list-style-type: none"> 安全パトロール（2班編成し、1回通学路、公園などパトロール） 月1回隣組長パトロールを実施 子ども達の登下校時、見守り隊が活動し、防犯や交通安全に努めている。 防犯パトロールを実施している。 通学時の子どもの見守り、あいさつ運動 防犯パトロール、子ども・高齢者の見守りなどこれから実施していきたい。 一人暮らし高齢者の安否確認ができるよう、隣近所を中心に民生委員、地区役員などで見守りのネットワークを作っていきたい。

議題4 望ましい地域に向けて、地域で実施していることや、これから地域住民や行政とともに取り組みたいことについて	
地域活動等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ体操の実施（4月～11月の週6日間） ・コロナが落ち着いたら、ふれあい昼食会の実施 ・社会福祉事業、活動の充実に努めている。ふれあい昼食会は月ごとに実施、手作りの提供を行っている。 ・上三林地区に残る、ささら舞は地域伝統文化として雷伝神社の秋季祭で発表し継承している。 ・集会所の利用（野辺いきいきサロン、野辺集いの場等）
ごみに関する問題	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナで買い物支援や見守りボランティアが先送りになった。様々な角度から検討し対応したい。 ・町内にコンビニが1店しかなく、高齢者には買い物が難しいので、移動販売などを定期的にも実施してもらいたい。
担い手問題	<ul style="list-style-type: none"> ・サロン、通いの場を行っているが、次の世代に引き継ぎをしたい。
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・役員であってもコロナ感染のリスクを考慮し、集会や活動への参加不参加について自身の判断が尊重される地域にしたい ・土地を分譲し住宅と人口を増やす ・新堀川を利用した遊歩道、高齢者の散歩コースをつくる ・家をバリアフリーにする補助金（助成金）の増額 ・感染症の行動基準に則った開催の仕方を工夫されたい。 ・住みたい町ランキングを上げたい
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・空き店舗の活用、お店づくり

7. 多々良地区

○懇談会参加者

支部長 1名 区長 9名 民生委員児童委員 4名 公民館長 1名

計 15名

○意見聴取状況

多々良地区では、各議題について書面回答としました。

○各議題に対する意見

議題1 自身の地域がどのような地域になることが望ましいかについて	
災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に町内で助け合える。
地域のつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が安全で安心して暮らせるまちづくり。(防犯、災害のない街) ・高齢者と若い人が共に支え合い、高齢者が安心して暮らせるまち。 ・世代を超えて交流ができる、誰もが暮らしやすい地域。 ・人と人とが寄り添って生きる社会。 ・昔の隣組のような深いつながりのある温情味のある地域。 ・「おかげ様で」「お互い様ですよ」となる地域。 ・コロナ禍で仲間意識が薄れているが、住民同士がもっとより沿っていくこと。(高齢者が多いと近所づきあいを大切だと感じるが、若者との付き合い方のズレも感じる。)
地域での見守り	<ul style="list-style-type: none"> ・区内の各組織の連携、情報共有により地域の諸問題に対処できるまち。 ・一人暮らしの老人が多くなり集合住宅のすべての確認は地区内では難しい。
福祉サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の相談所を開設し、ボランティアの支援により様々な問題を解決する地域。(各集会所単位の組織作りを行う)
ごみに関する問題	<ul style="list-style-type: none"> ・清潔できれいなまちづくり。(ごみステーションの分別管理)
移動・交通手段	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしの高齢者が買い物に困っているため、市内スーパーとの連携し、出前スーパーの充実を図る。
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々が希望に満ち元気よく健康で暮らせること。 ・多々良駅をもっと活用したい。 ・区画整地して、道路をまっすぐにしたい。 ・東武鉄道の線路の北側に幹線道路を通したい。 ・館林美術館と多々良沼という資産を活用したい。

議題2 自身の地域の良い点（強み）について	
災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> ・川や山が少ないため、水害や土砂崩れなどの災害リスクが少ない。 ・風水害が少ないので、安心して暮らせる地区 ・災害に強い地域
地域のつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・町内12班あり、班長と協力し合っている。 ・古くから顔見知りでほとんど転入者がいない。 ・自然発生的につくられた地域なので各年代のバランスがかろうじて保たれている。 ・昔から住んでいるひとも転入してきた人も良く交流に参加している ・長く住んでいる方が多く、人と人とのつながりが強い。 ・大谷町は細長く地域があるため、近い場所で仲間がつかれるため、心強い。 ・各区役員が長期就任しているため、一貫性のある区運営が行えている。
地域での見守り	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい公民館完成後、地域の方がより多く使用できる地域である。 ・祭りや講演の草取り等よく参加してくれる。 ・高齢者対応のサロンが集会所単位にある。 ・大谷町は3つブロックに分かれて民生委員が1人ずつサロン、通いの場を立ち上げている。
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・過去に比較的犯罪の発生が少ない。 ・小中学校が近いため、若い家族の転入世帯が多い。 ・地域内には、多々良沼、館林美術館、多々良駅がある。 ・高齢になっても野菜作りや草取りに励んでいる。 ・周りに田畑や土手などが近くにあり、散歩などに良い場所。 ・介護施設が2か所あり、それなりの年齢になるとデイサービスに通っている。

議題3 自身の地域の気になる点（弱み）について	
災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練をほとんど実施しておらず、地区で担当別に訓練を行った方がよい。
地域のつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が東西に長く人口も多いため、住民の意思疎通を取るのに苦労する（選挙の投票率に影響がでている）。 ・人と人とのつながり、絆が薄れかけている。 ・近所づきあいがうまくできない人がおり、お互い様の生活様式が全体に行き渡らない。 ・個人情報保護やプライバシーに対する意識が強すぎる面があり、必要な仕組みづくりが作りにくい。 ・住民が比較的転入者や若い人が多く、まとまりの欠けた感じがする。 ・住民の交流の弱さ

議題3 自身の地域の気になる点（弱み）について	
地域での見守り	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人のひきこもり ・地域の4割近くが高齢者である。 ・高齢者世帯が増加しており、福祉サービスの進め方を検討する必要がある。
地域活動等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・区の主催行事などに参加者が少ない。 ・人とのつながりを目的としているものの、地区役員は活動も知らない状態で残念。大谷町の方々も参加していただければと思っている。サロンには区から補助金が出ている。通いの場合は、近くの方でどなたでも歩いて参加できる方となっている。成島の方も仲間となり楽しくやっている。
空き家等の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家があり、樹木が生い茂っている。
移動・交通手段	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が徒歩で買い物できるよう1km以内にスーパーマーケットがほしい。
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・猫が多い ・多々良駅の南側は新築住宅が増えているが、北側は農地が広がっている。 ・道路の幅が狭く、曲がりくねった迷路のような場所が多い。
担い手問題	<ul style="list-style-type: none"> ・区の役員などに積極的に参加する人がいない。 ・地区の役員になる人がいない。

議題4 望ましい地域に向けて、地域で実施していることや、これから地域住民や行政とともに取り組みたいことについて	
災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に使用されると思われる公園、駐車場等の使用方法について考えておく ・災害に対して構造上はうまくできているように思われるが、実際に起こったら対応できるかわからない。サニータウンは炊き出しの班になっているが、一度も実施されていない状態。区と3自治会がまとまらなければならない。
地域のつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・広報には、大切な内容も掲載されているので、一人暮らしの高齢者へは、区費の支払い有無に関係なく配布するべき。 ・大谷町では3自治体があり、区との連携が不足している。
地域での見守り	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らしの高齢者が増えていくことから、隣組を充実させる。隣組長と副区長で隣組内の一人暮らしの方の情報を把握し、市の広報紙は直接配布を行い、生活状況を聞く。何かあれば、町内会に連絡相談を行う。隣組会長・副区長・町内会長には手当を支給するか増額する。 ・安全安心して暮らせる地区づくりの為に防犯組織を作り定期的に防犯パトロールをしている。 ・小中学生が安全に下校できるように定期的に青パト巡回を実施している。 ・高齢者への見守り、一声かけを行っている。 ・防犯パトロールを週1回実施している。 ・住民の不満や意見を聞くこと、全世帯に対しアンケート調査を実施した。

議題4 望ましい地域に向けて、地域で実施していることや、これから地域住民や行政とともに取り組みたいことについて	
地域活動等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・寿会、木戸町フレンドクラブ、グラウンドゴルフなどお年寄りのふれあいの場がある。 ・通いの場等で筋トレ体操やストレッチなどを行い体力維持に努めている。 ・寿会、グラウンドゴルフを行っている。 ・高齢者が増えていることから、地域での見守りやサロン等を活発化させて行きたい。特にひとり暮らしの高齢者の見守りは隣近所のできるようにしたい。 ・市民一斉清掃、渡良瀬川クリーン運動、町内の堀清掃に全員参加している。 ・神社の隣組単位の輪番制による清掃活動に良く参加してくれる。 ・夏祭りや各種スポーツ大会、災害に向け区民防災訓練を実施している。 ・新しく居住された方にウェルカムパーティー等を行い、地域のことを知っていただき、旧住民とのコミュニケーションを取れるようにしている。
福祉サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・問題に対し相談しやすい窓口が欲しい。 ・高齢者の生活支援、ボランティアセンターの設置（集会所単位で推進を図る必要がある）
ごみに関する問題	<ul style="list-style-type: none"> ・区の役員がゴミステーションに早朝立ち番を行い、ゴミ分別の指導を行っている。 ・高齢化に伴いゴミ当番が難しくなっている。地域の取り組みによって解決し、「地域の助け合い」「きずな」を醸成したい。
担い手問題	<ul style="list-style-type: none"> ・市内で起こっている事象について、情報共有し、市民意識を持つことで地域として何を行うべきか考えられる人を増やす。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査の結果によるPDCAサイクルのDだけでも具体的に知りたい。

8. 渡瀬地区

○懇談会参加者

支部長 1名 区長 2名 副区長 8名 民生委員児童委員 7名
主任児童委員 2名 小学校長 1名 公民館長 1名 公民館 1名 計 23名

○意見聴取状況

渡瀬地区では、2班に分かれて渡瀬地区に関する課題についてその場で議論しました。

○議題

【渡瀬地区に関する課題】

議題1：＜第1, 2班共通＞ 役員の担い手問題

議題2：＜第1班＞ 防災問題 ＜第2班＞ 防水害に伴う諸問題

議題3：＜第1, 2班共通＞ その他

○各議題に対する意見

議題1 役員の担い手問題について

- ・ 区長になれるのは何歳までか。年齢によって児童委員になれなかった方がいる。
- ・ 地元出身ではないが、副区長になった。任期中後任者を探さなければならないが、どんな人がいるかもわからないため、後任者を探せない。
- ・ 担い手を見つけるのが大変である。仕事がどんどん増えているように思う。誰が何をを行うのか、不要な役回りなど、整理する必要がある。
- ・ 民生委員も後任者を自分で探さなければならないのか。
- ・ 民生児童委員の役割は、相談内容を専門職等へつなげること。抱え込まないほうがよい。
- ・ 相談を専門職等へつなげるといっても、だれにどのようにつなげばよいか難しい
- ・ 役員の期間が短い。このため、ようやく課題を把握し、対応しかけた時に交代ということになる。また、新たな人では引継ぎを受けてもすぐに対応することは難しい。
- ・ 区長は、住民の名簿を持っている。後任者探しのために区長や周りの人が支援できるのではないか。
- ・ 役員OBの活用も大切である。
- ・ 区長のなり手の問題については、会計が次期区長となる仕組みをとっている。

議題2 防災問題、防水害に伴う諸問題について

- ・ 防災無線が第九小学校にあるが、住民に対してあまり活用されていない。
- ・ 安否確認など、民生委員の有事の際の役割が明確ではない。ガイドラインがない。
- ・ 防災訓練は地区別に行っているが、足次町では民生委員児童委員3名が要援護者のデータを持ち寄って、本当に困っている避難困難者の名簿作成を行った。市からもらう要支援者のデータの中には、自分で車を運転している人なども含まれているため、現状と乖離していることがある。

議題2 防災問題、防水害に伴う諸問題について

- ・台風などの際に警戒レベルに合わせてどの段階でどんな対応、支援をするのか決めるべきではないか。
- ・高齢者が避難するためには、避難準備が大事である。(事前準備をしっかり行い、避難をスムーズにする)
- ・避難準備を行うことで、いざ避難が必要となった際に、車で避難できる者は自力での避難、車が運転できない者は、地域住民による手助けを行うなど、避難をスムーズに行うことができる。
- ・水害については、水位によりレベル3、4となり避難することとなる。水位カメラの様子を住民がリアルタイムに確認できれば、早めの避難が可能となる。
- ・災害時の助け合いについては、隣5、6軒(隣組)で助け合うことがよいと思われる。

議題3 その他について

地域のつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもから高齢者へ声かけ(あいさつ)することで地域が元気になる。第九小学校では、小学校6年生を対象として、福祉の授業を実施し、子どもから高齢者への声かけの実施など実践されている。
地域活動等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが地域を元気にする。子どもと高齢者が交流できる行事など実施することが大事である。 ・コロナということで、市民一斉清掃や地域行事が中止されている。地域にとって不可欠な行事もあり、一律に中止ということではなく、どうすれば実施できるか等を検討すべきである。
空き家等の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家や耕作放棄地が増加している。草が伸び放題の状態である。 ・空き家や耕作放棄地については、所有者が判明している場合には、所有者との話し合いとなる。空き家については空き家対策の計画を策定している。空き家については、建築課、農地については、農業委員会又は農業振興課へ相談いただきたい。
移動・交通手段	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進み、買い物難民が増加している。とりせんの移動販売の取り組みで「とくし丸」があるが、その他の事例がないか。どのように助けていくべきか。 ・移動販売に関するパンフレット配布や宣伝を行っていくべきではないか。 ・隣組が地域で気になったことを区長等へ連絡することで、区長が地域における課題を把握することもできる。ただし、プライバシーの問題はある。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における課題を把握することが難しい。 ・成年後見制度に関し、公正証書の作成や、制度利用に関し、費用負担が発生する。補助金等による支援はできないか。 ・社協による法人後見や市民後見人制度がある。館林市では、市民後見人が1人誕生した。

Ⅲ 地域の課題一覧（「自助」・「互助・共助」・「公助」別）

課題	①災害への備え	②地域のつながり	③地域での見守り
内容	要支援者への支援体制の構築	身近に相談できる場所がない	報告・連絡・相談ができる地域になる
	年配者が中心とならざるを得ない状況	地域の課題を把握することが難しい	認知症等、高齢者の見守り、声かけ、日常把握が必要
	個人情報保護やプライバシーの問題	行政区や町内会へ未加入者がいる	若い人のひきこもりが 8050問題
	災害時の役割分担が不明確	町内会活動に参加しない者がいる	個人情報保護やプライバシーの問題
	河川の状況が分からない	近所付き合いの希薄化	アパート、集合住宅での一人暮らし高齢者の増加、孤独死
自助	防災訓練への参加	あいさつの実施	回覧（市広報紙）を直接渡す
	避難準備の実施		近所の人との立ち話
互助・共助	要支援者と支援側との日常的なつながり構築	集会所単位でのボランティアを中心とした生活支援の組織づくり	防犯パトロール、青パトロールの実施
	隣近所（隣組）での助け合い	地区住民への意見や不満に関するアンケート調査の実施	熱中症パトロール（80歳以上の高齢者対象）の実施
	地区防災計画の策定	市広報紙の全世帯配布	隣組長パトロールの実施
	防災訓練の実施	あいさつ運動の実施	民生委員・児童委員や保護司等との密な関係構築
	防災組織づくり	自主防災、通いの場、子ども会等の会合を実施し、地域の状況を把握する	一人暮らしの高齢者の安否確認のための隣近所と民生委員、地区役員等が連携した見守りネットワークの構築
	区と自治会の連携		隣組で一人暮らしの状況を把握し、町内会長と連携する
			一人暮らし世帯へのふれあい訪問
			子どもへの正しい横断歩道の渡り方の指導
			子どもの登下校の見守り、高齢者への声掛け、年1回の地域一斉清掃などの実施
公助	防災訓練の実施支援	市広報紙の全世帯配布	学校での福祉の授業の充実
	地区防災計画や防災組織構築の支援	地域課題全般に対する相談体制の充実	アウトリーチの実施、スマホを活用した見守り（SNS等）
	リアルタイムな水位カメラの公表	児童への福祉教育	個人情報、プライバシーに対する理解促進

課題	④地域活動等の実施	⑤福祉サービス	⑥ごみに関する問題
内容	子ども、親子対象のイベントがない	受けられるべき医療や介護が「受けられない」ということがないように	他地区者のごみの排出がある
	多世代が交流できるイベントの開催		ごみのポイ捨てがある
	新型コロナウイルスへの対応		ごみの分別区分、整理が不十分
	若い世代の参加が少ない		高齢化によるごみ搬出の困難化
	高齢者の生きがいづくりが必要		
自助	地域行事への参加		分別の実施
	区費への協力		一斉清掃への参加
互助・共助	地域行事の開催	行政等と要支援者を結び付ける者の育成	ごみステーションの掃除、分別、仕分け当番制
	地域の人たちと参加できる趣味やスポーツのサークルづくり		ごみに関する回覧実施
	気軽に参加できる高齢者クラブ、サロンの実施		廃棄物パトロール実施
	子ども会、育成会の活発化		神社の隣組単位の輪番制による清掃活動
	子どもや若者中心のイベント等の企画運営		ごみ搬出の助け合い実施
	夏祭り、スポーツ大会、歩け歩け大会、大運動会、地区体育祭、ラジオ体操、グラウンドゴルフ等の実施		
	夏祭り実施のための企業への協賛金集めや模擬店の運営		
	地域文化の児童等への継承(もちつき、田植え、稲刈り、サツマイモ植え等)		
	郷土芸能(ささら舞など)の児童等への継承		
	世代間交流の実施		
	ふれあい昼食会の実施		
町内会における人材バンク(スキル・キャリア登録)			
公助	地域活動実施場所の提供	アウトリーチの実施	ごみの分別方法等の情報発信
	地域活動実施への支援、補助	福祉サービスに対する相談体制の充実	防犯カメラの設置支援
	地域活動等の情報発信	コーディネーターの育成	

課題	⑦空き家等の増加	⑧移動・交通手段	⑨生活環境
内容	空き家が目立ち、荒地（草木が伸び放題）となっている	近くにスーパーがない	区画整理がされておらず、道路が狭い
	一人暮らしの増加による空き家の増加	病院が移転する	通学路（道路）に損傷
	耕作放棄地の増加、農家の後継者不足	運転免許の返納後の生活支援	街灯が少ない
	個人情報保護やプライバシー問題	高齢者の運転（交通事故）	犬の吠える声がいっもうるさい
		買い物支援サービス事業の中止	側溝の出っ張り、草が伸びている
自助			
互助・共助	空き家、空き地のパトロール	共助交通の検討	防犯灯及び道路状況調査を実施
		移動販売の実施	
		移動販売の広報、周知	
公助	空き家や耕作放棄地に対する相談対応の充実	共助交通、移動販売の検討支援	通学路（道路）の整備
	市役所の体制整備（対応策の具体化）	コミュニティバス、デマンド交通の充実	街灯、防犯灯の整備
		公共交通等利用補助	

課題	⑩役員等の担い手問題	⑪その他
内容	子ども会が失われつつある	遊歩道の整備（高齢者の散策）
	役員になる人がいない（若い人がいない）	高齢者の健康管理（散歩）
	区内にどのような人材がいるかわからない	組織的、継続的な対応が難しい
	サロン、通いの場等の次世代の運営	医療体制への不安
	若い人（50-60代）までの参加、協力が少ない	成年後見制度利用に関する費用負担
	役員の仕事の増加	芸術文化振興
	役員の任期が短い	空き店舗の活用
自助		
互助・共助		
公助	地域活動を担う人材（リーダー）育成支援	遊歩道整備
		地域包括支援センターの相談強化
		2層協議体へ専門職派遣
		空き店舗対策の実施
		成年後見制度利用に対する補助

IV まとめ

1. 災害への備え

各地区では、地区防災計画の策定が進められるとともに、要支援者対策として、「お助け名簿」の整備が進められています。

計画や名簿といった机上の対策は進められていますが、いざ災害が発生したときに誰が何をするのかといった災害時の役割分担や、要支援者との日常的なつながりがないこと、要支援者に関するプライバシーや個人情報の取り扱い方法などについての課題が見られます。

これらの課題に対して、「自助」の観点からは、『避難準備をしっかりと行う』ということが挙げられています。災害が発生する前に避難方法等について事前に確認を行うことが重要と考えられます。

「互助・共助」の観点からは、『要支援者と支援側の日常的なつながりの構築』や『防災組織づくり』などが挙げられています。隣組単位での助け合いを基本とするなど、災害発生時の助け合いの体制について防災訓練等を通じ、確認しておくことが重要と考えられます。

「公助」の観点からは、『地区防災計画や防災組織の構築支援』、『防災訓練の実施支援』などが挙げられます。水害に対しては、『河川の状況がリアルタイムに分かる水位カメラを公開すること』についても意見が挙げられています。

また、プライバシーや個人情報の取り扱いについては、どのような取り扱いが可能で、どのような取り扱いはやってはいけないといった『適切な取り扱い方法について行政等を交え、学習会などを行っていただくこと』が必要と考えられます。

2. 地域での見守り

各地区では、民生委員・児童委員による高齢者や障がい者への訪問、有志による子どもたちの登下校の見守り、隣組による防犯パトロールなど、見守り活動が展開されています。ただし、子どもの学校からの帰宅時間に合わせた防犯パトロールができない、新型コロナウイルスにより訪問活動を控えているなど、見守り活動の限界も見受けられました。

一方で、若い人のひきこもりや8050問題、アパート・集合住宅での一人暮らし高齢者の増加、認知症高齢者の増加など、地域での見守りの重要性が高まっています。

これらの課題に対して、「自助」の観点からは、『あいさつの実施』、『近所の人との立ち話』や『回覧板を直接渡す』ということが挙げられています。何気ない近所付き合いが重要と考えられます。

「互助・共助」の観点からは、『隣近所と民生委員・児童委員、地区役員等が連携した見守りネットワークの構築』、『一人暮らし世帯へのふれあい訪問の実施』、『集会所単位でのボランティアを中心とした生活支援の組織づくり』といったことが挙げられています。近

所づきあいから把握された困りごとなどを民生委員・児童委員や地区役員が共有できる仕組みづくりや、気軽に相談できる場所づくり、困りごとのある方への積極的なアウトリーチが重要と考えられます。

「公助」の観点からは、『行政機関と連携した支援体制や仕組みづくり』や『学校での福祉の授業の充実』などが挙げられます。

災害への備えと同様、見守り活動を行うためには、プライバシーや個人情報への配慮が必要となり、適切な取り扱いに向けた学習会などを行うことが必要と考えられます。

3. 地域におけるつながり、イベントや行事活動

各地区では、夏祭り、スポーツ大会、ラジオ体操、グランドゴルフなど、様々なイベントや活動が開催され、地域のつながりを形成する大切な役割を担っています。

夏祭りを実施するための協賛金集めや模擬店の運営といった、経験やノウハウが蓄積されてきています。

一方で、若い人の参加が少ない、子どもや親子を対象としたイベントが少ない、高齢者の生きがいつくりが必要といった声が挙げられています。また、行政区や町内会へ加入しない人や町内会の行事に参加しない人もいます。

これらの課題に対して、「自助」の観点からは、『行事の運営側としての参加』や『趣味やスポーツのサークルづくり』ということが挙げられています。様々なイベントや活動を行う運営側としての参加が重要と考えられます。『町内会における人材バンク（スキル・キャリアの登録）』といったアイデアも挙げられています。運営側としての人材を発掘していくことも必要です。

「互助・共助」の観点からは、『子ども会育成会の活発化』、『子どもや若者が中心となったイベント等の企画運営』、『気軽に参加できる高齢者クラブ、サロンの実施』といったことが挙げられています。特に『子ども』を中心としたイベントや行事は、多世代による地域のつながりを形成するうえで、重要であると考えられます。地域文化（もちつき、田植え、稲刈りなど）や郷土芸能（ささら舞など）の児童等への継承といった観点も挙げられています。

また、子どもや若者を対象としたイベントを実施しても、少子化などにより、子どもや若者の参加が少ないことが想定されるときには、他の町内会と連携、協力しながら実施するなどの工夫も見られます。

「公助」の観点からは、『地域活動実施場所の提供』や『地域活動等の情報発信』などが挙げられます。

『子ども』を中心としたイベント等の開催は、多世代でのつながりを形成し、地域の活発化にもつながります。子ども会育成会の活発化や企画運営者としての若い人材の発掘が重要と考えられます。また、参加者の確保については、行事や活動等の開催についての情報について、回覧板等を通じて周知するとともに、開催結果（開催時の様子）なども情報発信を行い、地域での活動状況を周知することが重要と考えられます。

4. 地域の困りごと

各地区における集まりや、第2層協議体における会議の開催など、地域の状況把握や課題解決に向けた検討が活発化しています。

このような状況の中で、市内8地区の状況についてみると、おおよそ同じような困りごとが発生していることがうかがわれます。

【共通して見られる困りごと】

- ・ごみに関する問題 例：ごみのポイ捨て、分別されていない
- ・空き家や耕作放棄地等の増加に関する問題 例：草木が伸び放題
- ・移動・交通手段 例：スーパーが近くにない、運転免許証の返納
- ・役員等の担い手問題 例：区内の人材把握が困難、役員の仕事の増加

これらの課題については、地域の状況把握を行うこと、例えば、『区や町内会の会合の実施』、『ごみステーションや空き家・空き地のパトロール実施』、『他地区との情報交換』といったことが「自助」や「互助・共助」の活動として実施されていますが、これらの課題に対する具体的な対策については、「自助」や「互助・共助」での対応が難しい状況が見受けられます。

地域の困りごとへの対応については、「公助」の役割を明確化し、相談対応を充実させることが必要と考えられます。

『ごみの分別方法等の発信の充実』、『防犯カメラの設置支援』、『空き家や耕作放棄地に対する相談対応の充実』、『共助交通、移送販売の検討支援』、『地域活動を担う人材（リーダー）の育成支援』など、多種多様な課題への対応が必要であり、地域との連携を強化するとともに、組織横断的な相談対応や、民間事業者や専門家等との連携も必要と考えられます。

また、モデル的な課題対応の実施などを通じ、成功事例を積み重ねていくことで、公助の役割を明確化し、地域の困りごとを解決できる体制づくりを進めていくことが重要と考えられます。